

司 式 熊 田 雄 二 牧 師

奏 楽 門 脇 陽 子 姉 妹

前 奏

開 会 招 詞

* 賛 美 歌 3:1 力の主をほめたたえまつれ

力の主をほめたたえまつれ わが心よ 今しも目さめて
たて琴かきならしつ 御名をほめまつれ アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 3 罪 の 告 白 ②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しなければならぬことをせず、してはならぬことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン。(詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈 禱 書 4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 3:2 救いの主をほめたたえまつれ

救いの主をほめたたえまつれ 御言葉もて我が身を励まし
悩みに勝たしめたもう 御いつたぐいなし アーメン

共同の祈禱 祈禱書28 聖餐式主日③(伝道)

主なる神さま、あなたは、御独り子をわたしたちの間に住ませ、わたしたちの喜びや悲しみを知る者とされました。主は病める者をいやし、罪人の友とられました。

わたしたちは、聖餐式にあずかるたびに、主の死を告げ知らせる使命を覚えます。十字架において、主は、全世界の罪のために、完全ないけにえとなってくださったことを、すべての人に宣べ伝えることができますように。

(マタイ9、イザヤ53、ヘブライ7、IIテモテ4)

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 盛岡伝道所 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 ルカによる福音書9章37～45節(新約聖書123頁)

説教・祈禱 「神の偉大さ」 熊田雄二牧師

* 賛美歌 78:1 輝く日を仰ぐ時

輝く日を仰ぐ時 月星ながむる時 雷鳴りわたる時 まことの御神を思う

讃えよ 我が心よ 聖なる御神を 讃えよ 我が心よ 聖なる御神を アーメン

* 主の祈り 祈禱書1

天にましますわれらの父よ
願わくは御名をあがめさせたまえ
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 66 世をこぞりて

世をこぞりて ほめたたえよ

御栄え尽きせぬ あまつ神を アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 門脇献一長老(司会・受付 次週:門脇陽子長老)

本日 受付 1階:加藤良明執事 2階:森永美保執事 /動画:門脇光生兄弟 録音:森永翔馬兄弟

次週 受付 1階:大日南隆夫執事 2階:藤井牧子執事 /動画: 録音:

I 弟子の無力さ

高い山でモーセとエリヤが現れたという出来事のあと、イエス様とペトロ・ヤコブ・ヨハネが山を下りると、大勢の群衆が待っていました。すると、ある人が息子から悪霊を追い出してほしいと、イエス様にお願いしました。マルコ福音書によると、山のふもとに残っていた弟子たちをお願いしたが、弟子たちはできなかつたからです。そして、律法学者たちと弟子たちの口論を、群衆が取り巻いていました。

「おかしいなあ、前はできたんだけどなあ」と劣勢です。弟子たちは悪霊を追い出す権威が与えられていたので、群衆はイエス様の弟子でもできると知っていましたし、弟子たちも得意になってやっていました。

前は出来たのに今は簡単には出来ない。これがキリスト告白前の弟子たちとキリスト告白後の弟子たちの違いです。マルコ・マタイ・ルカの共観福音書は、前半と後半の境目が弟子たちのキリスト告白です。

前半のキリストは、「嵐よ静まれ」「悪霊よ出て行け」と、自然界をも霊界をも支配する、神のように治める王の姿です。しかし後半は、十字架に向かってだんだん低くなっていく苦難のしもべの姿です。きょうの場面はいやしの記事ではありますが、イエスがキリストであることの証拠としてではなく、イエスをキリストと信じる信仰に重点があります。そこで次の段落で「再び自分の死を予告する」という小見出しが付いているのです。

では一番目はどこかという、9章21節からの段落のところでは、「イエス、死と復活を予告する」と小見出しが付いているところです。これは「ペトロ、信仰を言い表す」という小見出しの次の段落です。

ですから後半は、ただ王様の姿であるキリストから権威をもらっているだけではなく、苦難のしもべも加わったキリストから権威をもらうのでなければ、病を癒したり悪霊を追い出したりするわざは出来ないのです。

このあと10章にいくと、72人の弟子たちに悪霊を追い出す権威が与えられて派遣されましたが、彼らは得意になって帰ってきました。十二弟子はもっと得意になっていたでしょう。その高ぶりがイエス様にたしなめられました。

マルコ、マタイ、ルカの福音書は三度、主イエスの受難予告を記しています。ルカでは、きょうの所が「再び」ですのでもう一つあります。それはイエス様が十字架にかかるエルサレムに行かれる途中で、17章31節のところでは、

II 悪霊に取りつかれた子

さて、悪霊に取りつかれた子供の状態について、マタイは「てんかん」と病名を記していますが、マルコは「歯を食いしばって体をこわばらせる」と症状だけ記しています、ルカはマルコに従って症状を書いているが、「悪霊が取り付くと、この子は突然叫び出します。悪霊はこの子にけいれんを起こさせて泡を吹かせ、さんざん苦しめて、なかなか離れません」と、医者らしく詳しく書いています。マタイが「度々火の中や水の中に倒れる」と記しているところを、マルコは「幼い時から」と記するので、親は何年も気の休まる

時がなかったでしょう。ルカによると「一人息子」だったので、親はなおさら必死だったことでしょう。

イエスはこの子を憐れんで、いやしのわざをなさいましたが、ここでは信仰を問題にしておられます。誰の信仰を嘆いておられるのか、一見分かりにくいです。①イエス様がなくても、弟子でもできると思う群衆や親の信仰 ②弟子たちの信仰。

41節の「あなたがた」は、その親や群衆も含むでしょうが、やはり、おもに弟子たちでしょう。群衆はイエスのことを「エリヤだ」「モーセだ」とか噂している程度で、本当の正体がまだ分かっていません。弟子たちは、いろいろ噂がある中で、イエス様から「あなたがたは私を何と言うか」と聞かれて、「神からのメシアです」と答えました。「あなたこそキリストです」と告白した弟子たちが、「あなたがた」の中のおもな人々でしょう。

だから、その子がいやされたあと、弟子たちが「ひそかに」イエス様の所に来たことを、マタイは記しています。人前で恥をかいたのですが、やはり聞かずにおれません。「なぜ、今回は」という腑に落ちない思いが残っていました。

「なぜ」の問いに、イエス様は「信仰が薄いからだ」と、おっしゃいました。「薄い oligopistian」は、オリゴ糖の「オリゴ」（大豆などから抽出される糖分）です。ですから、「薄い」と言うよりは「小さい」です。オリゴ糖は小さくても効き目があるので、「からし種一粒ほどの信仰があれば、この山に向かって「ここからあそこに移れ」と命じても、そのとおりになる」と、イエス様は言われました。

Ⅲ 神の偉大さ

一回目の受難予告は、弟子たちのキリスト告白のあとという位置づけがありましたが、ここは、弟子たちの不信仰な行動のあとという位置づけです。イエスがキリストであることを証明するための奇跡が行なわれていたときは、弟子たちもメシアの働きにあずかって癒しの業ができました。

イエスがキリストであると告白したあとでは、メシアの受難と復活を信じなければ、もはやメシアの働きにはあずかれないのです。弟子たちが本当にメシアの働きにあずかるのは、十字架と復活の後です。

このあと福音書のストーリーは、イエス様にくっついて弟子たちの得意げな姿から、土壇場でイエス様から離れていく意気消沈した姿という展開です。

しかし、主イエスの十字架と復活の後、弟子たちに聖霊が降って、からし種一粒の信仰は、エルサレムから始まって、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地の果てまで起こされることとなりました。小さな信仰は、シオンの山だけでなく、全世界を動かすものとなりました。

その中に上福岡教会も含まれます。15年前の新会堂建築は、鶴ヶ岡という小さな丘、ほんの一山の上に建てられました。しかし、その一山も、真の信仰がなければ動かすことはできないと、主イエスは言われます。真の信仰が一粒でもあれば山をも動かすのですから、小さな丘など、偉大な神は簡単に動かすことができになります。しかし、真の信仰がなければ、ちびっ子広場の砂山も動きません。

山を動かす力は、キリストとその御言葉にあります。十字架の言葉は、この世の知恵には愚かであるが、信じる者には神の力です。御言葉には力があると信じて、神の国の働き

にあずかろう。御言葉による福音宣教と教会形成にあずかって、この町でも山を動かそう。

そのためには、一人一人の心の中に、からし種一粒でも、真実な信仰があることが必要です。小さくても、いや、小さければ小さいほど、神の偉大さが表されま2323す。